

報道各位

第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示帰国展 Cosmo-Eggs | 宇宙の卵 2020年6月23日[火]—10月25日[日]

公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館（館長 石橋 寛）は、国際交流基金と共催で第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展の日本館展示「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」（2019年開催）の帰国展を開催します。ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展は、イタリアのヴェネチアの各所を会場とし、2年に一度開催される現代美術の国際展です。1895年から120年以上の歴史を重ね、今なお大きな影響力を持っています。ヴェネチア・ビエンナーレの日本館は、石橋財団の創設者である石橋正二郎が建設寄贈、1956年に開館しました。そのような歴史的つながりから、このたび当館で帰国展を開催することとなりました。2019年、第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展の日本館展示「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」は、キュレーターの服部浩之を中心に、美術家、作曲家、人類学者、建築家という4つの異なる専門分野のアーティストが協働し、人間同士や人間と非人間の「共存」「共生」をテーマに構成されました。本展は、ヴェネチアでの展示をもとに、アーティゾン美術館の展示室にあわせて再構成するものです。映像・音楽・言葉・空間の4つの要素が共存するインスタレーションに、ドキュメントやアーカイブなどの新たな要素を加えご紹介いたします。



①日本館展示風景（撮影：ArchiBIMing / 写真提供：国際交流基金）（参考図版）

本展の構成・特徴・見どころ

(1) 第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展の日本館展示

「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」の帰国展

本展は、第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展の日本館展示「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」(国際交流基金主催)を、アーティゾン美術館で帰国展として再構成して展示するものです。

(2) ヴェネチア・ビエンナーレと日本館

1895年に最初の美術展が開催されて以来、120年以上の歴史を刻むヴェネチア・ビエンナーレ。国際美術展としては最も歴史が古く、日本は1952年から公式参加し、1956年には日本館が各国のパビリオンが立ち並ぶカステッロ公園内に開館しました。この建物は、石橋財団の創設者、石橋正二郎が建設寄贈したことにより実現したものです。そうした歴史的なつながりから、このたび石橋財団アーティゾン美術館で帰国展を開催することになったものです。

(3) 服部浩之によるキュレーション

服部浩之キュレーションによる「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」は、地球という時空間において、人がいかに動植物や土地と関わり生きていくことができるかを問うています。様々な自然災害や人災に見舞われる日本に暮らすわれわれが、地球という生態系における人間存在そのものを改めて問い、人間と非人間の共存や、限界が露呈しはじめている成長志向の社会を再考し、新たな暮らしのあり方を提示する試みです。

(4) 展覧会の起点 — 津波石

本展は、アーティストの下道基行が2015年以来調査と撮影を続けている「津波石」の映像を起点としています。津波石は、大津波により海底から陸上に運ばれた巨石で、世界各地に散在します。災害の記憶を留める自然石でありながら、時には地域の信仰の対象となり、地域に様々な物語が伝えられ、渡り鳥のコロニーや昆虫の棲家となって、自然と文化が混ざり合った独特の景観を形成してきました。下道は、隕石や巨大な卵のようにも見える津波石を広場、あるいはモニュメントに喩えます。

(5) 異なる専門分野の表現者の協働プロジェクト

本展は、下道の作品《津波石》を軸としながら、広場であるという思考を拡張し、安野太郎(作曲家)、石倉敏明(人類学者)、能作文徳(建築家)と協働することで、静かで穏やかな視覚世界に音楽が響き、言葉が重ねられ、統合された一つの空間に多様な身体経験を生み出します。一人の作家が国を代表するのではなく、異なった職能をもつ専門家の集団(コレクティブ)によって、現代の根源的課題を想像し思考する体験の場をつくることを試みます。

キュレーター服部浩之によるステートメント

本展は、ヴェネチア・ビエンナーレ日本館展示室を再現したインスタレーション空間を中心とし、それに注釈を与えるように分析を加え、制作過程で生じた様々な要素を紹介することで、プロジェクト「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」を改めて検証するかたちをとります。

日本館の建築空間と密接に呼応する本作のエッセンスを追体験していただけるようなあり方で、「帰国展」という構造にも応答する方法として、演劇の舞台のように日本館を再現することで、身体的経験と客観的考察を往来可能な形式を目指しました。プロジェクトを構成する各種素材、ビエンナーレで副産物的に生まれたもの、ビエンナーレ開幕前から帰国展までのプロセスの記録など、各種資料なども交えて、一步外側から「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」を捉えるドキュメントやアーカイブとしての側面も備えた展覧会となります。

キュレーター、アーティスト 略歴

キュレーター

服部浩之(はっとり ひろゆき)

1978 年生まれ。秋田公立美術大学大学院准教授。アジアを中心に展覧会、プロジェクトなどを展開。「あいちトリエンナーレ 2016」「近くへの遠回り」(キューバ、2018)など多数企画。

アーティスト

下道基行(したみち もとゆき)

1978 年生まれ。美術家。代表作に、日本の植民地時代に残された世界各地の鳥居を撮影したシリーズ《torii》や、大津波により海底から陸上に運ばれた巨石を取材し撮影したシリーズ《Tsunami Boulder》がある。

安野太郎(やすの たろう)

1979 年生まれ。作曲家。作曲とメディアアートを学び、アーティストとのコラボレーションも多数実施。代表作《ゾンビ音楽》は、複数のリコーダーに空気を送り込み、自動演奏によって奏でる音楽作品。

石倉敏明(いしくら としあき)

1974 年生まれ。人類学者。秋田公立美術大学美術学部准教授。神話や宗教を専門とし、アーティストとの協働制作を行うなど、人類学と現代芸術を結ぶ独自の活動を展開している。

能作文徳(のうさく ふみのり)

1982 年生まれ。建築家。建築設計だけでなく、アート作品、空間インスタレーションも手掛ける。2016 年第 15 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展では日本館展示に出品し、特別表彰受賞。

関連プログラム

■土曜講座「アーティスト・トーク」は、当面の間、開催未定です。最新情報はウェブサイトでお知らせします。

開催概要

展覧会名 : 第 58 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示帰国展
Cosmo-Eggs | 宇宙の卵

主催 : 公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館、独立行政法人国際交流基金

展示機材協力 : キヤノンマーケティングジャパン株式会社

会場 : アーティゾン美術館 5 階展示室

会期 : 2020 年 6 月 23 日 [火] - 10 月 25 日 [日]

開館時間 : 10 : 00 - 18 : 00 (毎週金曜日は 20 : 00 まで / 当面の間、中止)

* 入館は閉館の 30 分前まで

休館日 : 月曜日 (8 月 10 日、9 月 21 日は開館)、8 月 11 日、9 月 23 日

入館料 (税込) : 日時指定予約制 (6 月 3 日 [水] よりウェブ予約開始)

一般ウェブ予約チケット 1,100 円、当日チケット (窓口販売) 1,500 円、

学生無料 (要ウェブ予約)*

ウェブ予約チケットが完売していない場合のみ、美術館窓口でも当日
チケットを販売します。

* 中学生以下の方はウェブ予約不要です。

* この料金で同時開催の展覧会を全てご覧いただけます。

キュレーター 服部浩之 (秋田公立美術大学大学院准教授)

アーティスト 下道基行 (美術家)、安野太郎 (作曲家)、石倉敏明 (人類学者、秋田公立美術大
学准教授)、能作文徳 (建築家、東京電機大学准教授)

同時開催

ジャム・セッション 石橋財団コレクション × 鴻池朋子
鴻池朋子 ちゅうがえり (6 階展示室)

石橋財団コレクション選 (4 階展示室)

特集コーナー展示 | 新収蔵作品特別展示 : パウル・クレー

特集コーナー展示 | 印象派の女性画家たち



アーティゾン美術館 〒104-0031 東京都中央区京橋 1-7-2

Tel 03-5777-8600 (ハローダイヤル) <https://www.artizon.museum>

交通案内

JR 東京駅 (八重洲中央口)、

東京メトロ銀座線・京橋駅 (6 番、7 番出口)、

東京メトロ・銀座線 / 東西線 / 都営浅草線・

日本橋駅 (B1 出口) から徒歩 5 分

広報用図版

※1点のみ掲載の場合は p.1 掲載のメインビジュアル①をお使いください。

※掲載時には必ずクレジットをご記載ください。

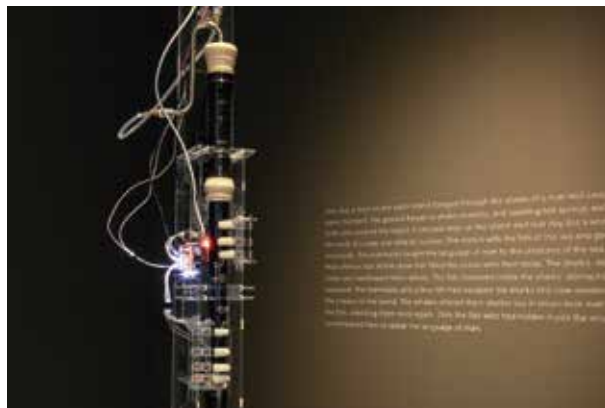
※文字載せやトリミングはご遠慮ください。

②



②③日本館展示風景（撮影：ArchiBIMing/ 写真提供：国際交流基金）

③



④



下道基行《Tsunami Boulder》より 2015年

⑤



キュレーター・アーティスト近影 左より：下道基行、能作文徳、服部浩之、石倉敏明、安野太郎 撮影：高橋希

本プレスリリースについてのお問合せ先

「アーティゾン美術館第2期展覧会」広報事務局(株式会社 OHANA 内)

担当：高橋・細川・妹尾

TEL: 03-6869-7881 FAX: 03-6869-7801

E-mail: artizon-pr@ohanapr.co.jp

〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-5-6 リそな九段ビル 5F

公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館についてのお問合せ先

アーティゾン美術館 広報課 松浦、小川、宮武

E-mail: publicity@artizon.jp

〒104-0031 東京都中央区京橋 1-7-2



アーティゾン美術館は日時指定予約制です

当館ウェブサイトよりご来館前に「ウェブ予約チケット」をご購入いただけます。

入館料 (税込)

	一般	大学生・専門学校生 高校生	障がい者手帳をお持ちの方と 付き添いの方1名	中学生以下
ウェブ予約チケット	1,100 円	無料 要予約 ウェブ予約をされない場合は 「当日チケット」(一般)をご購入ください。		無料 予約不要
当日チケット(窓口販売)	1,500 円			

*ウェブ予約チケット：各入館時間枠の終了 10 分前まで販売

*当日チケット：ウェブ予約チケットが完売していない場合のみ販売

日時指定予約制とは

入館までの待ち時間の緩和、より快適な鑑賞環境をご提供するために、1 日を以下の入館時間枠に区切り、その時間枠内にご入館頂きます。

① 10:00-11:30 ② 12:00-13:30 ③ 14:00-15:30 ④ 16:00-17:30

- 指定した時間枠内であれば、いつでもご入館頂けます。
- 入館後は閉館まで時間制限なくご鑑賞頂けます。入替制ではありません。
- 各時間枠の開始時刻直後は混雑が予想され、入館をお待ち頂く場合があります。開始時刻から多少遅れてのご来館をおすすめします。

ウェブ予約チケット購入方法

- 販売開始日 2020年6月3日 [水]
当館ウェブサイトの中の「チケット購入」画面からご希望のご来館日と入館時間枠をご指定ください。
- 当日でも各入館時間枠の終了 10 分前までご購入頂けます。
- 各種クレジットカードがご利用頂けます。

<https://www.artizon.museum>

「ウェブ予約チケット」の受け取りおよび入館方法

- ① チケットの購入が完了すると、ご指定のメールアドレスに URL を記載したメールが届きます。
- ② この URL にアクセスすると QR コードを取得できます。
- ③ QR コードをお持ちのスマートフォンに表示してご入館ください。
QR コードを紙に印刷してご入館頂く事も可能です。

当日チケットについて

ウェブ予約チケットが完売していない場合のみ、美術館窓口でもチケットを販売します。

予約について

- * 大学生・専門学校生・高校生は無料ですが、入館時間枠の予約が必要です。
入館時に学生証または生徒手帳をご提示ください。
- * 中学生以下の方は無料です。なお、入館時間枠の予約は必要ありません。
- * 障がい者手帳をお持ちの方と付き添いの方 1 名は無料ですが、入館時間枠の予約が必要です。
入館時に障がい者手帳をご提示ください。

グループでのご来館について

- * 中学生以下の方が 10 名以上で来館される場合は、事前に下記までご連絡ください。
ご連絡のない場合、展示室の混雑状況によってはご入館頂けない場合があります。
E-mail: groupdesk@artizon.jp

注意事項

- * 予約確定後はキャンセルすることはできません。
- * 日時指定の変更は1回に限り可能です。
- * 団体割引、シニア割引はございません。
- * 指定日時以外の入館はできません。
- * 営利目的でのチケット転売はお断りします。

アーティゾン美術館 展覧会（2020/6/23-10/25） 参考資料

1. 館長ごあいさつ 2. 展覧会担当学芸員によるステイトメント

2020年6月23日
公益財団法人石橋財団
アーティゾン美術館

1. ごあいさつ

新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に、謹んでお悔み申し上げますとともに、罹患された方々には心よりお見舞い申し上げます。

アーティゾン美術館は、展覧会の開幕を延期し休館しておりましたが、6月23日（火）より再開いたします。開館2期目となるこのたびの展覧会は、当館のコンセプト「創造の体感」を、3つのフロアそれぞれに異なるアプローチで具現化し、美術の多彩な魅力をご紹介します試みです。

6階展示室では、石橋財団コレクションとアーティストの共演「ジャム・セッション」の記念すべき初回として、鴻池朋子を迎えました。芸術の根源的な問い直しを続ける鴻池は、本展の開催にあたり「対話」を重ねて主題を深く掘り下げ、近代がつくりだした美術館の枠組みそのものを探りました。円形の大襖絵を配したインスタレーションを中心とするさまざまな仕掛けを通して、鑑賞者の五感に揺さぶりをかけ、新しい美術館の可能性を提示しています。

5階展示室では、ブリチストン美術館及び石橋財団創設者である石橋正二郎とゆかりの深いヴェネチア・ビエンナーレの日本館にて、国際美術展の一環として昨年開催された展覧会「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」の帰国展を開催します。服部浩之がキュレーションを務め、下道基行（美術家）、安野太郎（作曲家）、石倉敏明（人類学者）、能作文徳（建築家）の4名による映像、音楽、資料などで構成されるインスタレーションは、地球と人の「共存」「共生」をテーマとし、同時代を再考するきっかけを与えてくれます。

4階展示室「石橋財団コレクション選」では、所蔵作品の粋をご覧頂けると共に、特集コーナー展示にて「パウル・クレー」「印象派の女性画家たち」をご紹介します。建て替えのための約5年にわたる長期休館中も、収集活動を続けていました。このたび初公開となる新収蔵作品を核とする2つの特集展示が、時代を切り拓いた芸術家の創造に新たな光を当て、その考察と理解を深める機会となれば幸いです。

最後になりましたが、企画の実現にあたりご尽力を賜りました関係者の皆様に、お礼を申し上げます。

公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館
館長石橋 寛

2. 展覧会担当学芸員によるステイトメント

【6 階展示室】

ジャム・セッション 石橋財団コレクション×鴻池朋子

鴻池朋子 ちゅうがえり

アーティゾン美術館は、石橋財団コレクションと現代美術家の共演「ジャム・セッション」展を毎年一回の予定で開催することとなりました。その第一回目に鴻池朋子を迎えたのは、アーティゾン美術館の展示室を「ざわつかせる」ことで、これまでにない美術館の姿を見せてくれることを期待したためです。展覧会を開催するにあたり、鴻池は、美術館を構成してきた要素との「対話」によるセッションを重ねました。鴻池のていねいなアプローチによって、アーティゾン美術館という場が、鴻池の生み出す空間に取り込まれていきます。鴻池は、軽やかに「ちゅうがえり」するように新たな視点を提示し、そのなかで、鴻池の作品と19世紀フランス絵画との新たな関係性も生み出されます。

賀川恭子 学芸員

【5 階展示室】

第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示帰国展

Cosmo-Eggs | 宇宙の卵

昨年ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展の日本館にておこなわれた「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」。この展覧会を日本でも紹介すべく、アーティゾン美術館と国際交流基金との共催で、帰国展を開催することとしました。現代美術の祭典を当館で紹介することに意外性を感じるかもしれませんが、1950、60年代、当館の前身となるブリヂストン美術館では、積極的に国内外の現代美術を扱う展覧会を行っていました。ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展との関わりも古く、1956年自国のパビリオン日本館の建築完成には、ブリヂストン美術館の創設者である石橋正二郎が深く関与しています。帰国展とは何か、キュレーターとアーティストの間でその位置づけを検討することから始まり、再構成したこの展覧会では、ヴェネチアの再現展示に留まらないプロジェクトとしての「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」を感得してもらう内容となっています。

平間理香 学芸担当課長

【4階展示室】

石橋財団コレクション選

特集コーナー展示 | 新収蔵作品特別展示：パウル・クレー

2019年、石橋財団アーティゾン美術館は、20世紀前半を代表するスイス生まれの画家、パウル・クレーの計24点の作品を収蔵しました。当館では、1958年に国内で初めてとされるクレー展を開催しているほか、《島》(1932年)をはじめとする3点のクレー作品を収蔵し、コレクションの重要な要素と位置づけてきました。今回の新収蔵をもって、当館のクレー・コレクションは計27点となり、その画業の重要な局面を跡づけることが可能になったとともに、カンディンスキーやグロスの作品とあわせて、戦間期のドイツ美術の様相をうかがうことができるようになった点に、きわめて大きな意義を見出しています。本展示は計25点の展観により、このコレクションを初めてご紹介するものです。

島本英明 学芸員

特集コーナー展示 | 印象派の女性画家たち

アーティゾン美術館は、その前身であるブリヂストン美術館の1952年(昭和27)の開館より、印象派の絵画をコレクションの中心のひとつに据えて参りましたが、このたび開館に向けてこの分野をより充実させるべく、印象派を代表する4人の女性画家たち、ベルト・モリゾ、メアリー・カサット、マリー・ブラックモン、エヴァ・ゴンザレスによる5点の作品をコレクションに迎えることが出来ました。このたびは、これら新収蔵作品を一挙公開すると共に、館蔵の印象派の画家たちによる関連作品、さらには同様に新しく収集された西洋の芸術家の肖像のヴィンテージ写真コレクションから、これら画家たちがかわりのあった芸術家の肖像写真や、画家たちの活躍を伝える文献資料もあわせて展示いたします。

新畑泰秀 学芸課長

■ 本件についてのお問い合わせ先

アーティゾン美術館広報事務局(株式会社OHANA 内) 担当:高橋・細川・妹尾
Tel: 03-6869-7881 Fax: 03-6869-7801 E-mail: artizon-pr@ohanapr.co.jp
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-6 りそな九段ビル5F

■ 公益財団法人石橋財団 アーティゾン美術館についてのお問い合わせ先

アーティゾン美術館 広報課 松浦、小川、宮武 E-mail: publicity@artizon.jp
〒104-0031 東京都中央区京橋1-7-2 Tel: 03-5777-8600 (ハローダイヤル)